

自己評価表

(愛媛県立北宇和高等学校三間分校)
学校番号(43)

教育方針	校訓「協和・責任・健康」の精神に基づき、豊かな人間性と社会人としての資質を備え、地域文化の創造と産業の発展に貢献できる人材を育成する。	重点目標	「一人一人のよさを見つめ伸ばす教育の実践」 ～ 社会的自立力の育成を目指して ～
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	地域との結びつきを大切にした教育の実践	地域の教育力を生かし、地域行事やボランティア活動への一人1回以上の参加を目標とする。 評価基準 A 95%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 50%以上 E 50%未満 ホームページの適時更新、家庭通信の発行により、保護者や地域住民等への情報発信を積極的に行う。			
	働き方改革の推進	教職員がそれぞれの個性を発揮し、生き生きと活躍できる職場環境を整備する。 ICTを活用し業務の効率化を図り、勤務時間外在校等時間の削減を目指す。1か月の勤務時間外在校等時間が45時間以上の教職員数0を目指す。 評価基準 A 0人 B 5人以下 C 10人以下 D 15人以下 E 16人以上			
学習指導	学習習慣の確立	進路意識や目的意識を持たせ、学習意欲の向上を図り、授業と家庭学習との学習サイクルの習慣化を図る。また、ICTの活用により、家庭学習の充実に向けて、課題設定の工夫改善を行う。一日2時間以上の家庭学習習慣の定着を目標とし、学年、学級で学習時間の増加に向けた取組をする。 評価基準 A 2時間以上 B 1時間30分以上 C 1時間00分以上 D 30分以上 E 30分未満			
	読書指導の充実	SHR時に読書タイムを設定し、読書する習慣を身に付けさせる。 図書委員会活動を活性化させ、興味、関心を高めるために図書館の環境整備を図る。 評価基準(月平均の図書館利用日数) A 10日以上 B 5日以上 C 3日以上 D 1日以上 E 0日			
	教科指導の充実	課題の発見・解決に向けた主体的・協動的な深い学びの視点に立って、主体的・対話的な授業形態や授業方法等の工夫・改善を図るため、教員のスキルの向上に努める。 よく分かり、学び合う授業を実践して、生徒一人一人の良さをみつめ伸ばす教育を推進する。 観点別による学習評価を行い、学習改善につなげる。 評価基準(ICT活用・授業改善研究授業・研修会等実施) A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回 E 0回			
	言語活動の充実	「話す力」、「聞く力」、「話し合う力」等を育成する場面を、教育活動全般を通して、意識的に数多く設定する。 ペア学習や班別学習等の協動的な場面を設定し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、深い学びにつなげる。 評価基準(成果発表会及び協動的活動の回数) A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 0～1回			
生徒・地域との連携の充実	基本的な生活習慣と規範意識の確立	さわやかで明るいあいさつのできる生徒を育成する。 生徒自ら、生活のリズムを作り出せるよう指導を繰り返し、安易な遅刻や欠席をなくす。 高校生らしい清潔で端正な身だしなみを心掛けさせ、身だしなみ指導では違反の繰り返しをなくす。 ・身だしなみ指導回数不合格者数 A 0人 B 1人 C 2人 D 3人 E 4人以上			
	生徒理解と家庭や地域との連携の充実	授業開始のチャイム前に全員着席し、落ち着いた雰囲気在学习中にさせる。 校則や社会のルールを守ること、自分自身や他人の命や心を大切にすることを意識を養う。 登下校時の交通事故0件、交通違反0件。 年3回以上の個別面談を実施し、実施方法も工夫を重ねて生徒理解に努める。 教育相談体制を充実させるとともに、スクールライフアドバイザーとの連携を深め、生徒一人一人に寄り添う、きめ細やかな生徒指導の実践に努める。 生徒の学校生活の様子を記録に残し積極的に公開すると共に、保護者や地域との連絡を密に取り、信頼関係を結ぶよう努める。 ・ホームページの更新(授業外の生徒の活動) A 月10回 B 月8回 C 月6回 D 月4回 E 月2回以下			

L 導	部活動等の活性化	部活動の改変や本校との連携を深め、生徒の要望にきめ細やかに対応することで、部活動に対する生徒の意欲を高めさせる。 ・部活動加入率90%以上 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D70%以上 E 70%未満 ・部活動に対する生徒の満足度 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D60%以上 E 60%未満 地域行事や、お遍路文化の継承など三間地域に貢献できる活動に積極的に参加させ、生徒の新たな活躍の場を広げる。 地域活動への参加、年間一人1回以上の生徒参加率 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D60%以上 E 60%未満			
	生徒の人権意識を深める活動の実施	人権・同和教育ホームルーム活動や生徒人権委員会の活動を充実させ、「人権だより」や「人権壁新聞」の発行を通して、人権意識の高揚を図る。 全校面接や悩みに関するアンケートを実施し、学校が安心して生活できる場となるよう相談体制を充実させる。			
進路指導	キャリア教育指導の充実	総合的な探究の時間（コスモスタイム）・課題研究の充実を図り、自己実現の意識と社会人としての実践力を高めながら、望ましい職業観・勤労観を育成する。 A 十分な成果があった B 一応の成果があった C あまり成果がなかった D 成果がなかった 生徒会、家庭クラブや農業クラブ、委員会活動において、一人一役以上を目標に、自主的・実践的な活動を展開し、自己有用感を育む。 生徒が自己の将来を見据えた生き方を考え、主体的に進路を選択できるような系統的な指導計画を基に進路ガイダンスや面接指導を充実させる。 評価基準（進路ガイダンス実施4回以上） A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回 E 0回			
	個に応じた進路指導の充実	資格・検定の取得を奨励し、3年間で1資格（3級以上）以上の取得を目指す。目標に取り組み経験を通して、達成感を味わわせ、自信を育む。 評価基準（1資格以上の取得率） A 90% B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 70%未満 「3年生10人面接」等を通して進路意識を高め、卒業時の進路決定率100%を目指す。 評価基準 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 75%以上 E 75%未満			
	学校安全体制の強化・充実	学校安全に対する意識を高め、災害発生時に的確な行動ができるよう、実践的・組織的な活動を充実する。 A 5回以上 B 3回以上 C 2回 D 1回 E 0回			
安全 教育 と 防 災 教 育	防災教育の充実	防災意識の向上を目指すとともに、地域の防災活動や災害時の支援活動において、自らの役割を判断し、積極的に行動できる生徒を育成する。防災行事、避難訓練などを通して、すべての生徒が防災意識を高められるような体験内容を目指す。 評価基準(行事・訓練・防災士検定等参加延べ人数) A:70人 B:50名 C:30名 D:10名			
	保健活動の充実	生徒保健委員会活動を活性化させ、生徒の健康意識の高揚や行動化を図る。 健康に関する情報発信：保健だよりを毎月発行、SHR等の時間を活用した生徒保健委員による発表を年7回以上調査による計測：朝食摂取、睡眠時間の確保			
特別 支 援 教 育	一人一人に応じた指導・支援の充実	発達障がいを含む多様な障がいに応じた合理的配慮を整備するために、障害の特性の理解と生徒の実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに応じた、きめ細やかな指導・支援を充実させる。 校内研修会の実施：年2回以上を実施し、特別支援教育の専門性を高める。また、特別支援教育課会を随時実施して、情報の提供と共有を行う。 通級による指導の充実：記録簿の回覧により、教職員間の共通理解を高める。2・3年生で通級による指導「自立活動」が選択できなかった生徒に対し、放課後の実施を行う。			
	自立と社会参加に向けた教育の充実	卒業後の視点を大切にして「個別の教育支援計画・個別の指導計画」を作成し、関係諸機関との連携を図り、進路実現に向けた切れ目のない支援を実行する。また、「自立活動の個別の指導計画」を作成し、障がいによる困難の改善と克服に向けた指導の目的と手立てを明確化し、全教科に渡る教科指導を充実させる。 通級による指導「自立活動」においては、自己理解と職業観を深めるための現場実習を年1回以上実施する。			